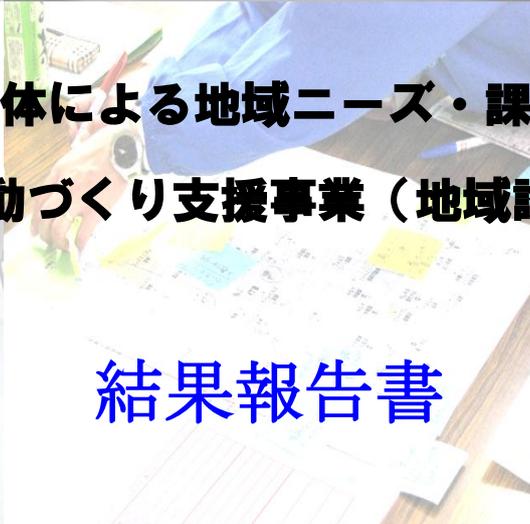




**住民主体による地域ニーズ・課題対応の  
活動づくり支援事業（地域診断）**

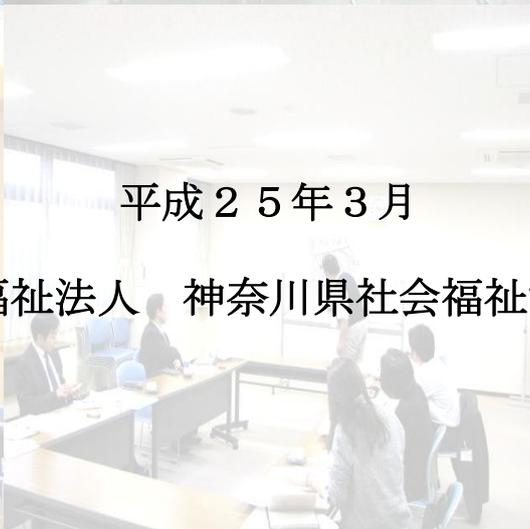


**結果報告書**



平成 2 5 年 3 月

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会



## はじめに

少子高齢化の進展や家族・地域のつながりの希薄化などを背景に、一人暮らし高齢者等の孤立化など、地域での課題が生じています。こうした状況の中、住民の主体形成を図り、地域の問題発見・解決力を高めていくためには、住民が主体となった活動に適した圏域を設定すること、その地域の情報（住民ニーズ、生活課題、社会資源）を把握・分析・評価すること、評価に基づいて計画化する、といったプロセスが重要になります。その具体的な方法として「地域診断」という手法があります。

そこで本年度、神奈川県からの委託事業（地域福祉推進基盤整備事業）にて、県内地域において実験的にこの「地域診断」に取り組み、その方法や過程、効果について検証を行いました。実施地域には座間市を選定し、座間市社協、市町村社協職員、学識者によるチームを構成し、地域住民と専門職とが協働した地域診断を実践しました。

具体的には、座間市社協主催の「入谷4丁目サポーターズ交流会」「地区社協全体研究会」の2事業に、神奈川県社協が設置する「社協によるコミュニティワーク実践のための検討会（以下CW検討会）」が協力し、既存資料の収集・分析、地区踏査、地域診断シートの作成、上記交流会および研究会の実施、といプロセスを経て取り組んで参りました。

この度、その成果を紹介したものをレポートとしてまとめました。概要のみの紹介ではありますが、本レポートの地域福祉推進関係者への普及を通して、今後の住民主体の活動の充実の一助となることを期待しています。

最後に、お忙しい中、本事業にご協力いただきました、座間市社協大友奉会長をはじめ関係役員の方々、アドバイザーとしてご助力いただいた駒澤大学文学部准教授の川上富雄先生、CW検討会の皆様、そして座間市民の方々に心より御礼申し上げます。

平成25年3月  
神奈川県社会福祉協議会

## 【 目 次 】

1. 地域診断とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
2. 実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
3. 実施結果の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7
4. 評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 24
5. 地域診断の枠組みとシート・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 26

# 1. 地域診断とは

## 1. 地域診断とは

地域診断とは、文字通り「地域を診断すること」である。「地域アセスメント」「コミュニティアセスメント」などとも呼ばれる。

社会福祉援助において個別の要援護者を支援する場合、その人のニーズの正確な把握（アセスメント）が援助のスタートになり、その結果を基に、援助目標と援助計画を立てられ、実際の援助が行われる。さらに、その情報は保管・更新され、定期的な再診断（再アセスメント）が行われ、状況は改善されたのか、目標にどれ位近づいたのか等が評価される。こうした個人への援助と同様に、地域課題を対象とする場合にも、「ただ何となく」「漠然と」関わるのではなく、地域を診断した結果に基づき、目標や計画を策定し科学的根拠を持って介入することが必要である。いわば地域診断は医師が患者を診る診察・検査であり、その記録はカルテであると考えられる。

## 2. 地域診断の基本的考え方

地域診断は、診断すること自体が目的ではなく、地域福祉推進の一連の流れの中に位置づけられるものである。地域の問題や資源の視覚化→課題の明確化・絞り込み・順位付け→解決方法の検討→住民や当事者による組織化→実際の活動開始・・・と展開するプロセスが重要なのである。特に、課題の明確化～解決方法の検討は、「小地域福祉活動計画」策定、すなわち住民主体形成・住民自治を推し進めることそのものであるといえる。

地域支援（地域課題解決に向けた住民主体の活動推進）においては、客観的データのみならず、地域特性、住民気質や関係性など非常に多くの要素・変数が相互作用して展開される。それ故、地域支援は専門職の見立てと仮説だけではなく、住民等多くの人の参加・協働のもとに行う必要がある。ケアマネジメントにおける「セルフ・ケアマネジメント」のように、地域診断においても、診断（アセスメント）や計画策定のプロセスに当事者である住民が参画することが、住民自身の自治力形成や問題解決能力向上、つまりエンパワメントにつながるのである。

## 3. 地域診断の範囲および地域診断の方法

地域診断は、市町村行政や市町村社協の計画策定時などにも、しばしば盛り込まれる。これは市町村圏域を対象とした地域診断だが、住民の生活圏域に即した住民主体の活動を推進する場合には、今回の座間市における実践のように、さらに小さな圏域設定（地区社協、学区、校区、自治会圏域等）を行い、その単位で実施することが重要となる。

地域診断における主な情報収集源としては、「既存のデータ」「既存の資源情報（リスト・名簿等）」「視診情報」や「当事者への聞き取りや住民懇談会声」などがある。なお「既存のデータ」「既存の資源情報」は、一見、簡単な作業のように思われがちだが、過去のデータとの時系列比較や、その地区と市・県・全国平均との比較等により、今後の傾向を推移することも大切になる。

いずれにしても地域診断は、住民主体の地域福祉活動を進める上で前提となる基本技術・必須業務といえるものである。

## 2. 実施概要

### 1. 目的

住民主体による地域福祉活動の推進を目指した、地域住民と専門職による協働的な「地域診断」に実験的に取り組み、そのプロセスや効果についての検証結果を地域福祉推進関係者へ普及することで、今後の事業や活動の一助となることを目的に実施した。

### 2. 実施期間

平成 24 年 11 月～平成 25 年 3 月

### 3. 実施主体

以下専門職チームを構成し、住民との協働的な地域診断を行った。

(1) 座間市社協

(2) 神奈川県社協「社協によるコミュニティワーク実践のための検討会（以下 CW 検討会）」

※社協の組織一体となったコミュニティワーク実践、地域支援機能強化に向けた方策を見出すことを目指した、市町村社協職員 6 名による検討会（平成 24 年 3 月～25 年 3 月）

(3) アドバイザー 川上富雄（駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻准教授）

### 4. 対象地域

座間市入谷 4 丁目／座間市内全域

- ・座間市入谷 4 丁目地区は、人口約 6,300 人、高齢化率約 29%。字、自治会連合会、小学校区、民生委員エリア等が複雑に入り組んでおり、新旧住民混在、県営団地や集合住宅が多く急勾配も目立つ。高齢者等を中心に生活ニーズが多いことが予想される一方、地区社協のような小地域福祉推進組織はないため、今後の住民主体の活動づくりに向けた新たな展開を期待。圏域設定の難しさなどからも多くの参考材料を得られることを想定。
- ・座間市は人口約 12,8000 人、高齢化率約 20.4%。座間市社協では、市内 27 カ所に設置されている各地区社協の役員を対象とした研究会を毎年開催。本年度の研究会で地域診断に取り組み、その意義や手法を学ぶことで、地域を見る視点が養われ、地域課題に応じた地区社協活動の充実が図られるという効果を期待。

### 5. 実施方法および手順

(1) 実施方法

- ・座間市社協主催の事業「入谷 4 丁目サポーターズ交流会（※）」「地区社協全体研究会」の 2 事業に、神奈川県社協が設置する CW 検討会およびアドバイザーが協力し、住民との協働のもとに取り組んだ。

※サポーターズ：地域福祉活動の担い手となる方々。座間市社協独自の表現。

(2) 実施手順 ( ※P.6 に実施フロー図を掲載。)

①既存資料の整理・分析等

・地区の人口や高齢化率、地域特性、社会資源等、基礎データの収集・整理

②地区踏査 (1回)

・地区を徒歩および車で巡り、地域特性に関する観察調査を行った。

③地域診断シートの作成

・住民と協働した地域診断を実践するにあたっての診断の枠組み・項目を決め、「地域診断シート」を作成した。

④入谷4丁目サポーターズ交流会 (3回)

・入谷4丁目地区住民を対象に、当該地域の情報や課題を共有し協議する「入谷サポーターズ交流会」を開催。地域診断の意義や必要性、方法等について基本的な講義を受けた上で、地域診断に取り組み、地域の情報や課題、資源を整理し、今後の地域課題解決に向けた検討を行った。

⑤地区社協全体研究会 (3回)

・市内全地区社協 (27地区) の役員を対象に、地域診断をテーマとした研修形式の研究会を開催。地域診断の意義や必要性、方法等について基本的な講義を受けた上で、試行的に演習を行い、それぞれの地区で実践し、結果を全体で共有した。

■CW検討会は、上記各プロセスに参加しながら、検討会での議論内容や発想を紹介する他、実施にあたっての提案や実施結果の検証、評価を行なった。

■アドバイザーは、専門的な見地から、実施にあたっての全体的な助言や提案、実施結果の検証、評価を行なった。

**【社協によるコミュニティワーク実践のための検討会について】**

**1. 目的**

社協の組織一体となったコミュニティワーク実践、地域支援機能強化に向けた方策を見出す。

**2. 設置主体**

神奈川県社会福祉協議会・市町村社協部会

**3. 実施期間**

平成24年3月～平成25年3月

**4. 検討会メンバー**

金城信彦 (逗子市社協)      稲積洋子 (三浦市社協)      白倉博子 (海老名市社協)  
吉田修平 (南足柄市社協)      山下 淳 (葉山町社協)      小野洋美 (開成町社協)

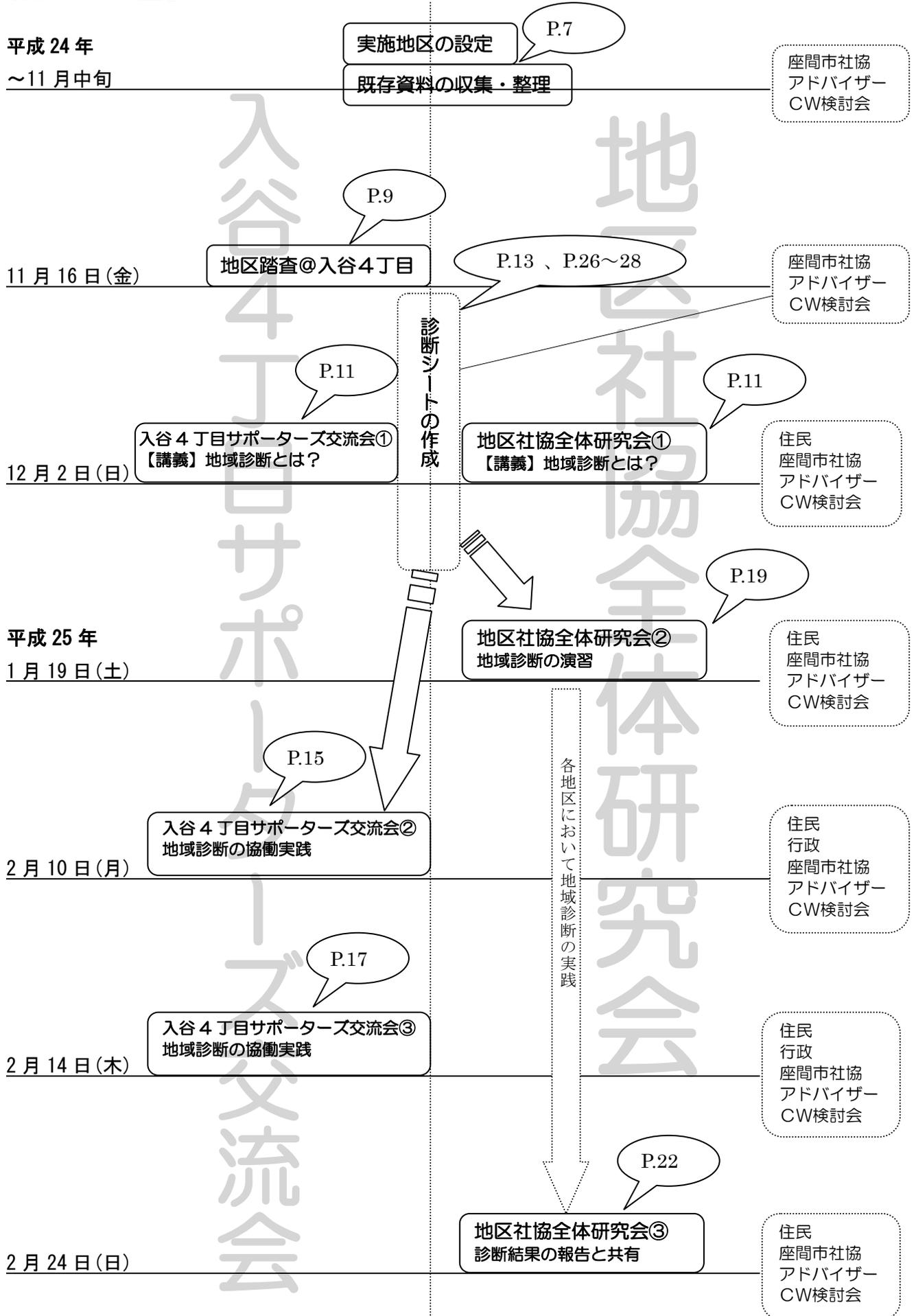
**5. アドバイザー**

川上富雄 (駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻准教授)

**6. 内容**

実践上の現状(問題点)についての情報交換/問題の整理と背景(阻害要因)の仮説立て/  
実践における課題の集約・整理/実践に向けた対策の方向性の明示、提案

# 【実施フロー図】



### 3. 実施結果の詳細

## 1. 実施地区の設定／既存資料の収集と整理

### ○実施地区の概況

市の要覧、住民基本台帳、市役所ホームページ、地図、市社協において事業を通して得た情報などから、実施地区における客観的なデータを収集しチーム内で共有した。



※座間市ホームページより抜粋。

#### (1) 座間市

##### ①地理

- ・神奈川県ほぼ中央に位置し、東京から約40km、横浜から約20km。ベッドタウンとして栄えてきた側面がある。

##### ②歴史

- ・古代以来交通の要所・宿場町として集落が形成され、戦前は農村、戦中は陸軍士官学校・海軍工廠などがおかれ軍都としての色合いを強めた。戦後は米軍の進駐を経て昭和30年代半ば頃からは大企業の誘致が行われ企業城下町が形成された。更に昭和40年代の急激な人口の増加により農村から工業及び住宅都市へと変貌を遂げた。

##### ③地形・人口等

- ・面積17.58 km<sup>2</sup>、人口128,137人、世帯数51,488、人口密度7,390人/km<sup>2</sup>（県下33市町村中4位、全国38位）、2.49人/世帯、高齢化率20.4%（26,000人）。西部（相模川沿いの沖積低地）と、東部の相模野大地（相模原台地）に分かれる。1960年代以降の宅地化により東部高台地域はほぼベッドタウン化。単身世帯28.3%（約14,400世帯）、単身高齢者世帯5.58%（約3,000世帯）、高齢夫婦世帯7.83%（約4,000世帯）。



※座間市社協資料をもとに作成。

(2) 入谷 4 丁目地区

- ・市のほぼ中央に位置し、南北約 650m、東西 600m、人口約 6,327 人、2,850 世帯  
高齢化率 29%、生産年齢人口 60%。
  - ・座間駅・周辺商店街、市役所や公園が徒歩圏内にあり近い。
  - ・〇〇台などの地名が多く見られ、台地と谷が入り組んでおり坂が多い。
  - ・自治会の数は 13 ある。
  - ・自治会加入率が 50%位に低下しつつある。
  - ・自治会長が単年度で交代するため、継続した活動が少ない
  - ・新興住宅なので根っからの市民という人が少ない。
  - ・住民祭などはない。サロン運営ボランティアグループなど熱心な活動はある
  - ・地区の中央で中学校区が 2 分、小学校区は 3 分される。東側は立野台小学校、中原小学校・  
栗原中学校区、西側は入谷小学校・西中学校区に分かれている。
  - ・駅の近くではゴミの問題が顕著
  - ・拠点が 2 ヶ所。老人憩いの家と信販自治会館。
  - ・コミュニティバスが通っている。
  - ・介護保険事業所が地区内に 1 カ所。大きな病院はない。
  - ・東建座間ハイツ（約 2000 人）には独自のコミュニティが形成されている。
- ⇒今回は対象から外すこととする。

## 2. 地区踏査

実施日時：平成 24 年 11 月 16 日（金）13 時半～16 時

実施場所：入谷 4 丁目／座間市総合福祉センター

実施体制：座間市社協、アドバイザー、CW 検討会

### ○実施概要

平成 24 年 11 月 16 日（金）の午後、入谷 4 丁目の地区踏査を実施した。座間市社協職員より説明を受けながら、実際に地区内を車および徒歩で観察調査した。主な特徴を以下のとおりまとめた。

#### （1）家屋と街並み、広場や空き地の様子

- ・全体として閑静な住宅地が並ぶ。斜面に沿って家が建てられており、入口まで 10 段前後の階段がある個人宅も目立つ。地区内の北東部にそびえ立つ東建座間ハイツは、住宅地と雰囲気を隔てている。西側に位置する高台からは丹沢の山が一望できる。
- ・ブランコなど遊具のある公園が数ヶ所あるがあまりひと気はない。空き地もまばらにある。地区外に出れば県立谷戸山公園がある。



坂の上からの一風景。

#### （2）交通事情やアクセスの状況

- ・市役所や小田急座間駅までは徒歩（5～15 分）圏内にある。一方で、幾重もの急勾配からなる地区のため高齢者等にとっては外出・移動に困難があると想像できる。
- ・自転車の利用者は少ない。タクシーには多く遭遇した。地区内に路線バスは走っておらず、コミュニティバスが通っている。信号はない。

#### （3）美化・防犯に関する状況

- ・駅の近くになると、ゴミ集積所の付近にゴミの散乱が目立つ。
- ・街灯が少なく夕方でも薄暗い場所があり、付近には防犯啓発の呼び掛けポスターも貼付されていた。



閑静な住宅。人通りは少なかった。

#### （4）集会所や商店など人が集う場

- ・老人憩いの家、自治会館、集会所がそれぞれ 1 ヶ所ある。座間ハイツ内にも集会所があるが、住民活動や話し合いのために恒常的に使える拠点は少ない。
- ・スーパーが 2 ヶ所、その他、まばらに個人経営の商店が見られる。シャッターが閉まっており営業中でないと思われる店舗もあった。

#### （5）外見や人々の様子

- ・全体として高齢者が目立つが、時間帯もあって、幼稚園・保育園帰りの親子連れがいて坂道の途中で駄々をこねる幼児の様子が見られた。

#### (6) 医療施設や社会サービス機関

- ・大きな病院はない。有料老人ホームが1ヶ所、訪問介護事業所が1ヶ所、幼稚園、保育園がそれぞれ2ヶ所ずつある。診療所が何軒か。



急な傾斜の坂道がいたるところに・・・。

### ○振り返り、今後に向けた検討

地区踏査を終えて、それぞれの得た情報や気づきを共有し、今後に向けた検討を行った。

まずは専門職が実際に際に歩くことで、この地区での住民の生活を想像することができた。地区のこれまで収集した客観的な情報を、地域住民に提供しつつ、住民の生活実感に照らし合わせて評価し、地域課題の解決に向けて専門職と住民とで協働して取り組んでいくこととなった。具体的には「地域診断シート」により、住民と一緒にワーク形式で行う。



事務所に戻り、改めて地区の情報を確認。

短期間での作業であることを鑑み、予めテーマを絞り、地域診断シートを作成した上で、住民に働きかけていくこととなった。留意点として、専門職目線のシートではなく、住民が取り組みやすいものを作成することとなった。アドバイザー川上氏からの地域診断の枠組み・項目の提示を受け、これをもとに入谷4丁目版と地区社協全体研究会版と双方のシートを作成することとなった。

また、入谷サポーターズ交流会と地区社協全体研究会で、それぞれの内容、目標、進め方について全体共有を図った。入谷4丁目地区には地区社協等の小地域福祉推進組織がないことから、その組織化を視野に入れたもの、地区社協用には、地域の課題に応じた活動展開の充実を視野に入れたものを作る。

### 3. 入谷4丁目サポーターズ交流会①／地区社協全体研究会①

実施日時：平成24年12月2日（日） 13時半～16時半

実施会場：座間市立青少年センター

実施体制：座間市社協、アドバイザー、CW検討会

参加者：38名（内訳：地区社協役員、入谷4丁目地区住民）

#### ○実施概要

市内住民を対象に、地域診断についての基本的な理解を図るための講義を実施。事前にチラシを配布および個別に連絡し招集。地区社協役員および入谷4丁目地区住民が対象。テーマは「地域診断とは」。講師は駒澤大学准教授の川上富雄氏。高齢化率や人口変動、地域や家族の変容、今日的な生活課題について、具体的な数値を示し、また、座間市の基礎データや入谷4丁目の基礎情報を示し、課題の認識化を図りながら、住民主体の地域活動における地域診断の意義や必要性について講義を行った。



「地域診断」とは何か・・・まずは講義で。

#### ○講義概要

##### 1. 地域社会の現状

- ・ 少子高齢化が急速に進んでいる。全国平均は23%、座間市は20.4%。
- ・ 人口減少について。2105年には日本の人口は5000万人を割る。現在の3分の1となり、生産も消費も、あらゆる営みが3分の1になる。
- ・ 地域や家族形態の変容。戦後の家族モデルが、核家族化から更に単身世帯化へ移行してきている。高齢者の一人暮らしだけでなく、若い世代の一人暮らしも増加。無縁社会、孤立を生じさせている。
- ・ 家族人員が減るということは、自助力が減るということ。従来は家族や地域で担っていた機能が、外部化、商品化してきている。象徴的なのが葬儀屋等。



講師の川上富雄氏（駒澤大学准教授）  
※本地域診断のアドバイザー。

##### 2. 地域住民の役割について

- ・ 住民懇談会などを開催すると、地域の生活課題はそれなりに出てくるが、「ではどうするか」という話に移ると意見が出なくなる傾向がある。それは、住民同士で一緒に何かをしようという関係性・コミュニティが弱まっているため。
- ・ コミュニティ再構築のカンフル剤はないが、地域の共通のテーマに取り組むことで、将来



地域の方で埋まった会場。

的なコミュニティ再構築につながる。

- ・地域には様々な生活課題がある。多くは“無縁社会”であることに起因している。
- ・漠然とではなく、具体的な活動につながるような、テーマを設けて取り組むことが大切。
- ・それには、困っている人が地域にいないか、調べてみるのが出発点になる。
- ・ライフラインに関することは行政が担う。一方、孤独感など心のニーズは行政では対応できない。これは地域住民が担えること。

### 3. 住民福祉活動を進めるにあたって

- ・地域を基盤とした住民福祉活動は、共感原理に基づく自発的な活動であることが大事。
- ・市町村社協に「やってください」と言われたからやっているという状況ではいけない。
- ・すべて自発的ということとは難しい。牽引役の専門職やリーダーの存在が必要となる。
- ・地域には自治会、地区社協をはじめ色々な活動主体があり縦割になりがち。しかし住民の生活は縦割ではない。活動領域の棲み分けをするのではなく、一緒にやっていくことが大事。
- ・ニーズや課題に基づいた活動をするには、まず課題のあぶり出しが必要。

### 4. 住民福祉活動・地区社協活動の計画的な推進

- ・市町村域よりも小さなエリアにおける活動計画（＝小地域福祉活動計画、地区社協活動計画）が必要。決まった体裁や様式はない。課題、目標、対策・方法、期間が入っていれば計画といえる。計画づくりが目的にならないこと、計画書づくりにならないことに注意。地域課題解決に向けた活動の計画的な推進が目的である。
- ・まずは「地域診断」による地域課題の把握が前提として必要。住民と専門職が一緒になって取り組む形が一つ考えられる。ぜひ地域診断に取り組んでいただきたい。
- ・地域診断の枠組みや項目は広くあるが（P.28 参照）、この中から、必要なデータを収集し、それを基に、地域の皆さんが取り組みやすい、共感しやすいテーマで今後の地域の目標を立てていただきたい。

## ○講義後の振り返りと今後に向けた検討・確認

今後に向けた話し合いを行い、以下のように総括。

- ・講義内容は大変分かりやすく、参加者からは、今後何に取り組むのかを理解できたという声などポジティブな反応が多く見られた。住民福祉活動における地域診断の意義や必要性について、基本的な理解を得ることはできたと思われる。
- ・1月以降、具体的に実際に住民と一緒に地域診断に取り組むにあたり、市社協とアドバイザーが相談の上、地域診断シートを作成することとなった。併せて、市社協職員による地域住民への説明や、投げかけも平行して行うこととなった。



1月からの実践に向けた確認を行なった。

## 4. 地域診断シートの作成

### ○実施概要

既存資料の分析および地区踏査、アドバイザーからの助言を踏まえ、住民とともに地域診断に取り組むにあたり以下のような診断の枠組みを設定し、シートを作成した。専門職によるものではなく、地域の人も参加して前向きに取り組みやすく答えを導きやすいライトな作りになった。住民目線で、生活圏域に基づいて考えやすくなるように、生活に絡む情報を中心の構成とした。いわば地域住民が地域を知る試みのきっかけとなることを期待したものともいえる。

#### (1) 「入谷4丁目サポーターズ交流会」版 ⇒P.27 参照

##### ①地域情報

- 人口（男性・女性）／世帯数／一人暮らし世帯数（高齢者世帯数も）
- 自治会加入世帯数／自治会加入率
- 児童数（15歳未満）／生産人口数（15歳以上65歳未満）／高齢者数（65歳以上）／外国人居住者数
- 構成自治会
- 地域資源（教育機関／行政機関／医療機関／商業施設／福祉施設／その他）
- 地域団体
- 地域の歴史 ※自由記述
- 地域のおすすめポイント 要援護者にとって／子どもたちにとって
- 地域のおこまりポイント 要援護者にとって／子どもたちにとって
- 私たちができること 要援護者にとって／子どもたちにとって

##### ②入谷4丁目の縮小地図。

#### ※視点・ポイント・意味

- ・既存のデータから「要援護者」および「子ども」にとっての生活課題の多さを仮定し、この2テーマの視点を盛り込んだ。
- ・図上で地域の状況をイメージしながら、思い思いに地域の情報を書き込んで共有できるように4丁目の縮小地図を右半分に入力。
- ・地区社協のような小地域推進組織が設置されていないため、組織情報の欄は設けず、地域情報のみとした。
- ・地域にある様々な情報を資源として捉えられるように、地図と地域情報のデータを一体化した。
- ・「地域のおすすめポイント」「おこまりポイント」の数は、限られたエリア内で出せそうな個数（5個）とし、それに連動して「私たちができること」を記入する構成。
- ・客観データがあった上で、診断シートによる作業を入口として、更に踏み込んで調べ、課題やヒントが見つかるものと思う。

(2)「地区社協全体研究会」版 ⇒P.28参照

①組織情報

- 地区社協名／設立年／会長名・選出母体／住所／連絡先／役員等構成／会議開催状況／構成団体／会計概要／会議参加状況／事業実施状況／特徴・PR

②地域情報

- 人口（男性・女性）／世帯数／一人暮らし世帯数（高齢者世帯数も）
- 自治会加入世帯数／自治会加入率
- 児童数（15歳未満）／生産人口数（15歳以上65歳未満）／高齢者数（65歳以上）／要介護認定者数
- 構成自治会
- 地域資源（教育機関／行政機関／医療機関／商業施設／福祉施設／その他）
- 地域団体
- 地域の歴史 ※自由記述
- 地域のおすすめポイント
- 地域のおこまりポイント
- 私たちができること（課題と取り組み対策）

※視点・ポイント・意味

- ・左半分が「組織情報」、右半分が「地域情報」のつくりとなっている。組織情報と地域情報を対比させることで、現在の地区社協の現状を振り返りつつ、地区社協活動⇔地域課題の関係が分かるように意図。
- ・自身の組織についての公表・説明資料にもなる。
- ・「地区社協版の診断シート」となり、それぞれの地区活動の根拠（エビデンス）の確認、他の地区との比較、活動の模倣等にも活用出来る。
- ・次年度の活動を検討するうえでの参考資料となり、地域の課題に応じた地区社協活動の充実へとつなげることが期待される。

## 5- (1) 入谷4丁目サポーターズ交流会②

実施日時：平成25年2月10日（日） 13時半～16時半

実施会場：つどいの丘集会所

実施体制：座間市社協、行政（※）、アドバイザー、CW 検討会

参加者：12名（内訳：一般、自治会、民生委員児童委員、老人クラブ）

※市福祉長寿課より2名の行政職員も参加し、統計的データ等の情報提供を中心に協力。

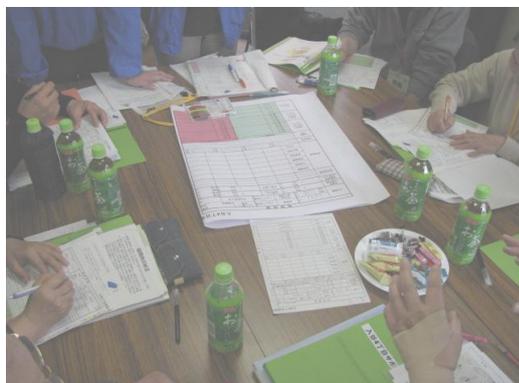
### ○実施概要

入谷4丁目内にある「つどいの丘集会所」にて、第2回入谷4丁目サポーターズ交流会を実施した。事前に市社協より周知・連絡をして招集。

「4丁目の福祉を考える～地域診断をやってみよう」というテーマで、住民参加ワーク形式で、地域の情報や課題の共有、今後の活動に向けた話し合いを行った。半数の参加者が、前回（12月2日の講義「地域診断」）は参加していなかったため、最初に駒沢大学の川上富雄准教授から、地域社会の現状や、地域診断についての基本的な理解を図るための講義を行った。生活課題の複雑多様化→制度だけでは対応できない→地区社協など小地域におけるコミュニティ住民福祉活動の必要性→住民福祉活動の計画的な推進の大切さ→その入口が「地域診断」という流れで、取り組むにあたっての意識化を図った。6名×2つグループに分け、市社協が作成し「地域診断シート」を用いて作業に取り組んだ。

まず、シート右側の入谷4丁目の地図を見ながら、参加者自身がどこに住んでいるかを確認し合い、地区全体のイメージを持った。その上で、日頃地域で感じている、知っている地域の情報を比較的自由に話し合い、地図に書き込んでいった。

次に、シート左側の地域情報記入欄を埋める作業を行なった。人口規模や高齢化率などの統計的な数値は市役所職員から提供・説明を受けつつ、地域の客観的な情報（人口、地域の歴史、地域団体、資源になり得る施設や建物など）を埋めていき、左右併せて入谷4丁目地区を概観できるシートを作成していった。



それぞれが持っている情報を出し合い、シートが埋まっていく・・・。



地図を基に色々な情報が出てきた。

データはこちら側（専門職・行政）で持っているものもあったが、予めシートに埋めておくのではなく、できるだけ住民の方に想像したり考えたりしていただく時間を大切に、この場でそれぞれが情報を出し合う中で協働を重視した。

さらに、これらの情報をもとに「要援護者にとって」という視点で、①地域のおすすめポイント（＝強み）および、②おこまりポイント（弱み）について考え、記入した。

①については、駅に近く便利なこと、公園など景観の良さ、②については、ゴミ出しマナー、治安上の問題、自治会活動、学区の問題、交通状況や歩道の狭さなど、抽象度の高いものが挙げられた。一方で、主語を「要援護者にとって」と置き換えたところ、①老人憩いの家など拠点の存在、②移動困難、買い物困難など、具体性が強くなった。時間的な問題もあり、グループごとに発表を行い、共有し、終了となった。



可視化された地域の情報を共有。

### ○振り返りと今後に向けた検討・確認

振り返りと今後に向けた話し合いを行なった。主な意見や感想は以下のとおり。

- ・時間的な問題で、地域の目標を固めるところまでは到達しなかったものの、地域のことを話し合い共有する場としては成功であった
- ・市社協の業務を横断した職員連携体制が効果的である。
- ・住民は専門職ではないので、文字を書く作業よりもむしろ話していただき、社協職員が書くという役割分担に効果がある。
- ・地図があることで、取り組み易かったようである。「この場所は街灯が少ない」「この付近でひったくりがあった」など、具体的な事例も多く出てきた。
- ・いきなり「課題」ではなく、「地域の歴史を教えていただく」というアプローチにより、話が盛り上がった。
- ・坂道の多さという問題が予想したほど出てこなかった。「要援護者」の視点を持つことは、当事者ではない中で、簡単にはイメージできないかもしれない。

次回は、地域情報として足りていないものを追加すること、今回挙げられた問題の中から、住民自身が対応していけると思われること何か、資源として活用できるものは何かを話し合い、「私たちができること」という形で入谷4丁目地区の目標を設定することを目指す。

## 5- (2) 入谷4丁目サポーターズ交流会③

実施日時：平成25年2月14日（木） 19時～21時

実施会場：入谷老人いこいの家

実施体制：座間市社協、行政（※）、アドバイザー、CW 検討会

参加者：10名（内訳：一般、自治会、民生委員児童委員、老人クラブ）

※前回に引き続き市福祉長寿課より1名の行政職員も参加。

### ○実施概要

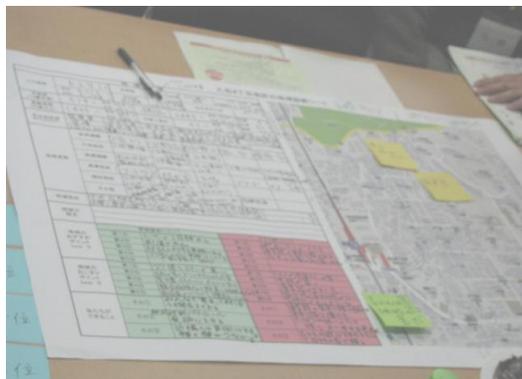
入谷4丁目内にある「入谷老人いこいの家」にて、第3回入谷4丁目サポーターズ交流会を実施した。

グループは前回の2グループを基に形成し、まずは、シートをもとに作業の続きを行い、地域情報の洗い出しを行った。今回は比較的自由に意見交換を行ったが、今回は可視化された情報を、強み・弱みに棲み分け、今後に向けたアクションへと方向づけるよう、座間市社協職員がより積極的にリードして整理・集約を行なった。



地域の目標づくりへと向かう

その結果、「ひったくりや空き巣など犯罪に関することは、要援護者にとっても子どもにとっても生活上の課題」「有志のパトロール隊がいる＝強み」など、地域の客観的な状況を具体的に評価するような意見も多く出てきた。また、地区内スーパーの利用率について、買い物のポイント制の有無が関連しているのでは？など、この地区で生活している住民ならではの情報に基づく分析も見られた。120分という枠の中で、十分に情報を分析する時間はなかったものの、最後に「わたしたちにできること＝目標」を各グループでまとめるに至った。



徐々に完成していくシート。

隣近所の人間関係が薄い、あいさつがない等、抽象度の高いものから、地域活動のための拠点の整備、老老介護、防犯に関する具体性のあるものもあった。前者についてはあいさつ運動など比較的すぐに取り組

みやすい一方で、後者については「ここで我々が出し合った情報のみで十分なのか」「ニーズ調査が必要ではないか」「実際に進めていくには色々と決めることがある。その集まりが必要ではないか」など、今後の行動化に向けて更に詳細を詰めていくこと、その機会の必要性についての意見が出された。

## ○交流会のまとめと今後の展望について

これまでの経過と結果を受け、全3回にわたり実施してきた入谷サポーターズ交流会のまとめおよび今後の展望について、以下のように締めくくられた。

- ・地域のつながりを強めることはいずれのグループでも共通課題として認識されていた。
- ・近隣の間関係がないところでは、防災、防犯、何においても安心した生活は難しい。
- ・今回立てた目標は今後の行動の根拠になるもの。
- ・しかし目標を実践、行動するためには、今回集まった十数人の力だけでは難しい。
- ・このサポーターズ交流会を中心に、輪を広げ、住民主体の課題解決の活動の推進基盤としていくことを座間市社協として今後も支援・協働していく。
- ・すぐに地区社協という形にはならなくとも、今回の話し合いから、次は行動に向けた話し合いをする段階へと発展させていくための議論の場を市社協として引き続き設けていく。



青いジャケットの市社協職員。部署を越えた地区担当制で交流会を進める。

## 6- (1) 地区社協全体研究会②

実施日時：平成 25 年 1 月 19 日（土） 13 時～16 時半

実施会場：座間市総合福祉センター

実施体制：実施体制：座間市社協、アドバイザー、CW 検討会

参加者：35 名（内訳：地区社協役員）

### ○実施概要

1 月 19 日（土）の午後、第 2 回地区社協全体研究会を実施した。参加者は、市内 27 ある地区社協の役員。

「わたしの町の福祉を考える～地域診断とは？」というテーマで、今後の地区社協活動の充実を目指した研修である。前回（12 月 2 日の講義「地域診断」）に参加していない方もいたため、最初に駒沢大学准教授の川上富雄准教授より、地域社会の現状や、地域診断についての基本的な理解を図るための講義を行った。地域社会の状況を踏まえた共助力向上の必要性→小地域におけるコミュニティ住民福祉活動（特に地区社協）

の意義→地域の生活課題に基づいた活動をすることの大切さ→課題を洗い出し、解決に向けた計画化をするための見立て＝診断が必要、という流れで、地域診断の意義について共有化を図った。

予め、隣接地区同士あるいは農村が多い地域、新興住宅の多い地域など、地域性に考慮して 5 グループに分けた。市社協が作成した「地域診断シート」の構成について職員より基本的な説明を行った後、職員の進行のもと地域診断の演習を実施した。

まずはシート左側の「組織情報」を埋める作業である。いわば地区社協の組織や活動の概要を可視化する作業である。地区社協の総会資料等をもとに、個人ワークとして、所属する地区社協の情報をシートに記入していった。シートの完成度には個人差が見られたが、職員より、自身の組織・活動についての振り返りとともに、活動への多くの住民参加を図っていくための公表・説明資料にもなることを説明し、全体で作業の意味を確認した。



座間市の地図。各グループに配布。

次に、シート右側の「地域情報」について作業に取り組んだ。なお、この日は、それぞれの地区で地域診断を実践するにあたっての事前の演習・トレーニングの場と位置付け、人口規模など基礎データについては座間市全体を対象とした。座間市全体の地図を配布。

また、(サポーターズ交流会と同様に) 基礎データはこちら側で持ちつつも、予めシートに埋めてはおかず、できるだけ住民の方に考えていただくことを重視。その場で電卓を用いたりして数字を出していった。そして、こうした統計的な数字は、市ホームページや住民基本台帳等色々な情報源があることなど、実践上のヒントを提供した。



市社協職員の進行でスタート。

左側のシートの完成度にもグループごと差異が見られたが、シートが埋まること自体が重要ではなく、足りない情報を知ること、ここで調べきれない情報があれば別の方法（地区踏査等）も探り、課題や資源を発見していくことが重要であることをアドバイザーや職員より説明。最後に、シートに表現された情報をもとに①地域のおすすめポイント（＝強み）、②おこまりポイント（弱み）について記入。グループごとに発表を行い共有するところまでで演習は終了となった。主なものは、①：水が美味しい、どんど焼きなど伝統的な地域行事の継続、防犯活動が盛んである、買い物に便利など、②：大型商業施設の新設による個人商店衰退、渋滞問題、治安が悪い場所、子どもが少ないなど。



「宿題」用に準備された地区ごとの地図。



拡大地図で情報を確認中。

各グループからの発表を受け、アドバイザーよりまとめ、解説、今後の実践に向けた助言を行なった。概要は以下のとおり。

- ・地域診断の全国共通版のものはない。地区ごとオリジナルを作成することを期待。
- ・今回市社協で作成した項目以外のものでも必要感じたら盛り込んで良い。
- ・おすすめポイント＝強みは、おこまりポイント＝弱みを解決する資源になることがある。ぜひ地域の強み、良さを発見して頂きたい。

- ・大型商業施設の問題など、人によって良い・悪いに分かれる問題もあるが、意見の違いで対立してしまうのではなく、合意形成を目指すことを大切にしたい。
- ・地域診断の方法は、今日のような形でなくとも、住民へのヒアリング、地区踏査、住民懇談会など他にもある。

本日の演習終了後は、次回（2月24日）までの間に各地区にて「宿題」として地域診断に取り組むことになった。地区社協の定例会などの機会に役員の方を中心に取り組んでいただくことを想定。市社協よりその旨の説明をし、宿題用の地域診断シートと地区ごとの地図を参加者に渡し解散となった。

## ○振り返りと今後に向けた検討・確認

振り返りと今後に向けた話し合いを行なった。主な意見や感想は以下のとおり。

- ・時間的に、地域の目標を決めるところまではいかなかった。
- ・シートの完成度には差異が生じたが、楽しそうに取り組む様子は見受けられた。反応は悪くなかったと思われる。
- ・どんど焼きなど、本来は自治会の活動と思われるようなものを行っているところもあるが、今

回が、既存の活動のあり方を考えるきっかけになると期待できる。

- ・住民の反応は一律に同じではないが、いくつかの地区から良い反応があれば、モデル的、重点的に進めていくことができそうである。
- ・予め職員が基礎データを集め、その場で提供する形は協働して取り組む上で効果的。そのデータの情報源をお知らせすることも大事。
- ・住民懇談会では行政批判等の意見多く出てしまうことがあるが、今回はなかった。こういうシートがあることは有効であると思う。
- ・シートの内容の工夫について。数字や客観的な内容だけでなく、例えば1件の個別事例があれば、それを入れるだけでも、住民の意識が変わってくると思われる。 Ex.孤独死など
- ・市社協の色々な業務分野の職員が地区担当として協力体制ができています。
- ・今後について。各地区で宿題として取り組むとして、スケジュール的に完成度の高いものにするのは難しい。しかし何回も集まることには住民も負担感がある。ヒントを導き出せるような工夫が必要。
- ・市社協職員の継続的な関わり・フォローが必要。そうしないと、例えば地区社協会長が一人で全て埋めてしまうこともあり得る。人数を絡めて取り組んでもらうプロセスを大事にしたい。
- ・地域への押し付けではなく、協働してやっていくものであることをしっかり説明していく必要がある。せっかく作っても今後に使えないものになってしまうので注意したい。

各地区での宿題について、市社協の地区担当職員によるフォロー・支援をできるだけ行なうこととし、次回の研究会（2月24日）には、宿題として作成したシートを複写・配布し、これを基に発表を行うことを確認した。

## 6- (2) 地区社協全体研究会③

実施日時：平成 25 年 2 月 24 日（日） 13 時～16 時半

実施会場：座間市総合福祉センター

実施体制：実施体制：座間市社協、アドバイザー、CW 検討会

参加者：35 名（内訳：地区社協役員）

### ○実施概要

2 月 24 日（日）の午後、第 3 回地区社協全体研究会を実施した。前回開催から 1 カ月以上の期間が開いているため、振り返りと、地域診断と本研究会の趣旨について改めて川上准教授より講義にて説明。概要は以下のとおり。

- ・研究会をとおして、地域を見る視点を養うこと、地域の生活課題の発見から解決に向けたアクションの流れを考えるきっかけとしてもらうことが目的。福祉に限定しなくても良い。
- ・今回は統計データや資源のリストアップを中心に行ったが、これは地域診断の一部分であり、他にも地区踏査や住民へのインタビューなど方法は様々ある。高齢化問題など漠然とした意識で終わるのではなく、要援護者などの個別の困りごと、事例が実際にどのくらいあるのかしっかり調べてみるのが地域診断。その後の活動の根拠づくりでもある。



各地区での“診断”の結果をお互いに報告。

・学んでいただいた手法は今後も活かしていただくことを期待する。年 1 回でも良いので継続して取り組んでいただきたい。そして、情報やデータの更新もしていけば、そこから新しい課題が見つかることもある。

次に、各地区で作成されたシートを基に（回収し印刷、冊子にして一人ずつに配布）、グループ内で発表と意見交換を行なった。グループは前回の 5 グループをもとに形成。市社協職員が進行し、作成上気づいた点、苦労した点、良かった点などを中心に話し合った。

最後にグループごとに発表を行なった。地区ごとに人口規模、面積、地域資源など、環境に大きな差がある中で、内容は様々であったが、①地域のおすすめポイントは自然の多さや、買い物など生活の利便性、公共施設の充実など、②地域のおこまりポイントは自治会加入率、病院等少なさなど、抽象度の高いものが目立った。そうした中、一人暮らし高齢者の見守りや買い物困難者の問題などを挙げているグループも見受けられたが、取り組み方策までを考えるにはもう少し時間が必要であったといえる。



グループごとに発表。

各グループからの発表を受け、アドバイザーの川上准教授よりコメント・解説を行ない、最後にまとめと今後の実践に向けた助言を行なった。概要は以下のとおり



川上氏から総評と、今後に向けたメッセージ。

- ・データの収集の大変さは、共通して感じられた。
- ・様々なデータの集合から、その地域の生活ニーズを推測することができる。例えば、おこまりポイントの第1位に「商店が少なく高齢者が買い物困難である」という地区があったが、こういった仮説を立てることができるのである。
- ・他に比べて地域資源が多く記入されているシートもあった。その部分だけでも、利便性が高い地域なのではないかと推測することができる。

- ・地域診断は地域活動のプロセスの出発点に過ぎない。
- ・地域の暮らしのために、地区社協を活かしていただきたい。
- ・そのためにも、地域診断を継続して頂くことを期待。今回作成していただいたシートは、地域プロフィールでもある。地区内での交流や情報交換会など、次年度以降の活動に活かすことを提案したい。地区社協として、行事やイベントのみではなく、日常生活をどのように支え合うかも、考えていっていただきたい。とりわけ要援護者など、弱い立場にいる方にとってどうなのか、イメージしていただくことが大事。
- ・そして住民の合意を得られやすい活動に優先して取り組んでいただきたい。
- ・地域福祉活動は地域のニーズに基づいたものであることが基本。我が町流の活動を充実して行って欲しい。

## ○振り返りと今後に向けた検討・確認

振り返りと今後に向けた話し合いを行なった。主な意見や感想は以下のとおり。

- ・シートによって、一人で埋めたのではないかと思われる、主観が強いものも見受けられた。
- ・前回の演習では地域情報を市全域を対象としたため、各地域で実践する際にはデータ収集が困難であったようであるが、それでも取り組んでいただけたのは、市社協との関係、フォローがあったからであると思う。
- ・全体発表は地域情報のみであったが、発表には組織の問題がどうしても入ってくる。大きな問題なのだと思う。
- ・概して地域の方は、こういう作業よりも、発言するほうが得意であったりする。我々は仕事でも、住民の方は任意の活動。したがって、「課題」というアプローチだけではなかなか活動へと結びつかない。
- ・シートそのものの自体の作りにも課題があるかと思う。改善が必要である。

以上を踏まえ、今後も、地域の生活課題に応じた地区社協活動の充実を目指し、地区社協による地域診断の実践と継続に向けた支援を行なっていくことを確認し終了した。

## 4. 評価

本事業アドバイザー：川上富雄（駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻准教授）

### 1. 事業全体

今回、座間市を舞台に地域診断の実験的事業を行った。その方法は、①入谷4丁目における様々な立場の住民の参加による地域診断と、②市内全域の各地区代表者らによる自らの地域の地域診断という2つのアプローチであった。

入谷4丁目での取り組みは、専門職と住民協働による地域診断の実験的試行とも言えるもので、住民の主体的関与を引き出しつつ地域診断シートを作成していくものであった。一方、②の地区社協全体研究会は、地域代表者に対し「地域診断という方法によって改めて地域のことを振り返り、地域課題や地域資源を明らかにする」ということの啓発・周知的な側面が強かったといえる。

### 2. 実施プロセス

ここでは、地区踏査に始まる、①入谷4丁目サポーターズ交流会について述べることとする。

まず座間市社協およびCW検討会関係者が地区踏査により、住宅の状況、坂道、歩道、人の流れや集まりなど、地図上だけでは読み切れない地域状況を把握した（例えば、東建座間ハイツの高層団地が、周辺住宅地とは一種違った意識・文化・行動様式を持っているのではないかということを感じ取ることができた）。関係者は、こうした予備知識を持った上で、入谷4丁目サポーターズ交流会の実施に入っていた。

交流会では、「地域診断とは何か」の基本的理解を図った上で、地域診断シートを埋める作業に取り組んだ。シート地図上に課題発生点や資源情報を直接書き込む手法を取ったことは、住民の具体的なイメージを導き、場所の確定や共通認識化を大いに助けた。基礎的な諸データの書き込みは住民自身の力だけでは難しく、専門職の支援が必要であることが判明した。我々の想定以上に、情報探索力・収集力・分析力が要求され、住民にとっては困難が多かったようである。一方、「地域資源情報」や「お勧め・お困りポイント」については比較的スムーズにシートを埋められたように思う。ただ、挙げられた課題は限定的であり（我々はどうしても自分の経験知・見聞知の範囲からイメージをしがちである）、さらに広範多様な課題を抽出するためには、より多くの住民参加・当事者参加が必要であると思われた。

シートの「私たちができること」までを埋めてこの交流会は終了した。今後、それを住民自身が実行する段階に入る訳であるが、挙げられた地域課題と住民の役割については、さらに丁寧な再検討が必要と思われる。というのも、今回の参加者が考え決定したことへの地域住民全体の納得・承認・協力が得られるかどうか、そもそも、シートに書かれた内容で良いのかどうか等、オーソライズが必要な部分は多く、この辺りへの丁寧な働きかけが今後の課題と思われる。

### 3. 実施スケジュール

いずれの取り組みも約4～5ヶ月という短い期間であったため、住民にとっては趣旨や方法の消化が十分ではない中での作業となった点は否めない。今回は地域診断という手法の啓発というと

ころまでの評価とし、今後改めて、各地区においてより多くの住民参加を得つつ丁寧にこの作業に取り組む必要がある。その場合、特に②については、地区代表者の交代等により今回の成果が引き継がれない可能性もあるため、できるだけ早い時期でも再作業の促しが必要かもしれない。

#### 4. 診断項目の枠組み、シートの作り

各シートは、「住民が取り組みやすい」ことを想定したものであった。特に入谷4丁目のシートにおける地図記入は、地理的・歴史的話題に偏る可能性を孕みながらも（時間的な余裕があれば、そういった話題も決して無駄ではないが）、大変有効であることが分かった。

地域診断シートは、できれば他の福祉的データ（障害手帳所持者、保育所や待機児童、生活保護など様々）やデータの時系列変化や全国・県データとの比較など分析しながら再発見・再認識ができるような工夫があることも必要であるが、住民自身でこれらの作業をやりきることは困難であり、それには専門職の関与・協力が必須となるであろう。

#### 5. 住民・専門職との連携（住民へのアプローチ・住民の反応など）

今回は、短期間での実験的なアプローチであったため、専門職側から住民への働きかけや進行において急な展開・運営があったことは否めない。住民のペースに合わせた専門職側の関わりが難しく、結果として住民に急がせるような関わりがあった。実際に参加者から「ちょっとしんどかった」というニュアンスの声も聞かれた。スケジュールや作業水準の高さから、負担感を抱かせた部分があったと思われる。今後、本事業に参加協力いただいた住民への十分なフォローが必要である。本格的に地域診断を行う場合には、時間的に余裕を持ち、専門職が住民の側面援助者としてペースを合わせつつ難しい作業部分の支援など、より丁寧な関わりが求められる。

#### 6. 実施体制

一般的に地域支援は社協の中でも地域福祉課など地域福祉担当セクションのみの業務となっており、他セクションの職員は無関心である場合が多い。今回、地域診断に協力いただいた座間市社協においては、そうしたセクションを越えて様々な部署の職員が本事業の運営・進行を担っていた。座間市社協の地域福祉推進力、意識・力量両面での職員層の厚さなどは特筆に値する。

#### 7. 総括

専門職と住民が協働した地域診断の実施は、時間・労力を要するものであり、地域支援、コミュニティワークの入口であると分かっているにもかかわらず、あまり取り組めていないことが多いのではないだろうか。そうした中、地域診断の意義、枠組み、手法の開発に取り組んだ今回の実験事業は大変意義深いものである。またそこから得られた成果と課題の両方が重要な示唆となっている。実際には、もう少し時間を掛けて取り組むこと、職員のより丁寧な関与（住民との共同作業）の必要性、シート作成の作業からニーズが導き出せるような、或いはニーズが容易に想像できるような診断シートの工夫・・・など何点かクリアすべき課題が見えた。

こうした科学的手順に基づいた地域福祉推進の仕事により、地域ニーズの的確な把握、その過程を通じた専門職と地区住民の信頼関係構築、様々な事業や活動の開発・工夫・発展への波及等、多くのことが期待されるものと考えている。

## 5. 地域診断の枠組みとシート

### 1. 地域診断の視点と枠組み

地域診断の方法や視点、枠組み・項目について確立・定説化したものはないが、例えば「地区社協」規模などの小地域で実施しようとする場合の一例として、下記のような内容が考えられる。

必要に応じて収集・分析

↓  
それぞれについて強みと弱みの評価を行う

#### ①地区名

#### ②地理的・歴史的・社会的・文化的・政治的概要

- ・ 行政区域、面積、地形、気候、土地利用状況、地域交通、住宅等の状況、歴史・経済・産業・風景、犯罪、疾病、自治会長選出システムや住民意識、学区や道路や行政境界による住民意識分断など、担当地区の概要
- ・ 地図（地理的・行動的地域の特徴、資源、拠点など書き込んだもの）

#### ③人口・世帯統計（経年推移、市町村・県全体との比較も）

- ・ 年齢別、男女別、世帯数、人数、居住形態累計など統計的概要

#### ④要援護者の状況と地域課題

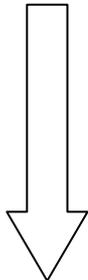
- ・ 身体障害、知的障害、精神障害、高齢者、高齢者のみ世帯、高齢者単身世帯、ひとり親世帯、生活保護、生活福祉資金、児童
- ・ 民生委員、福祉委員等の状況
- ・ 統計的把握だけでなく各担当者が把握しているケース／個別ニーズも
- ・ 住民の不安、不便の声（福祉に限らず）

#### ⑤福祉・保健・医療関係機関の設置および事業活動の状況

- ・ 専門職の状況

#### ⑥インフォーマルな組織や活動

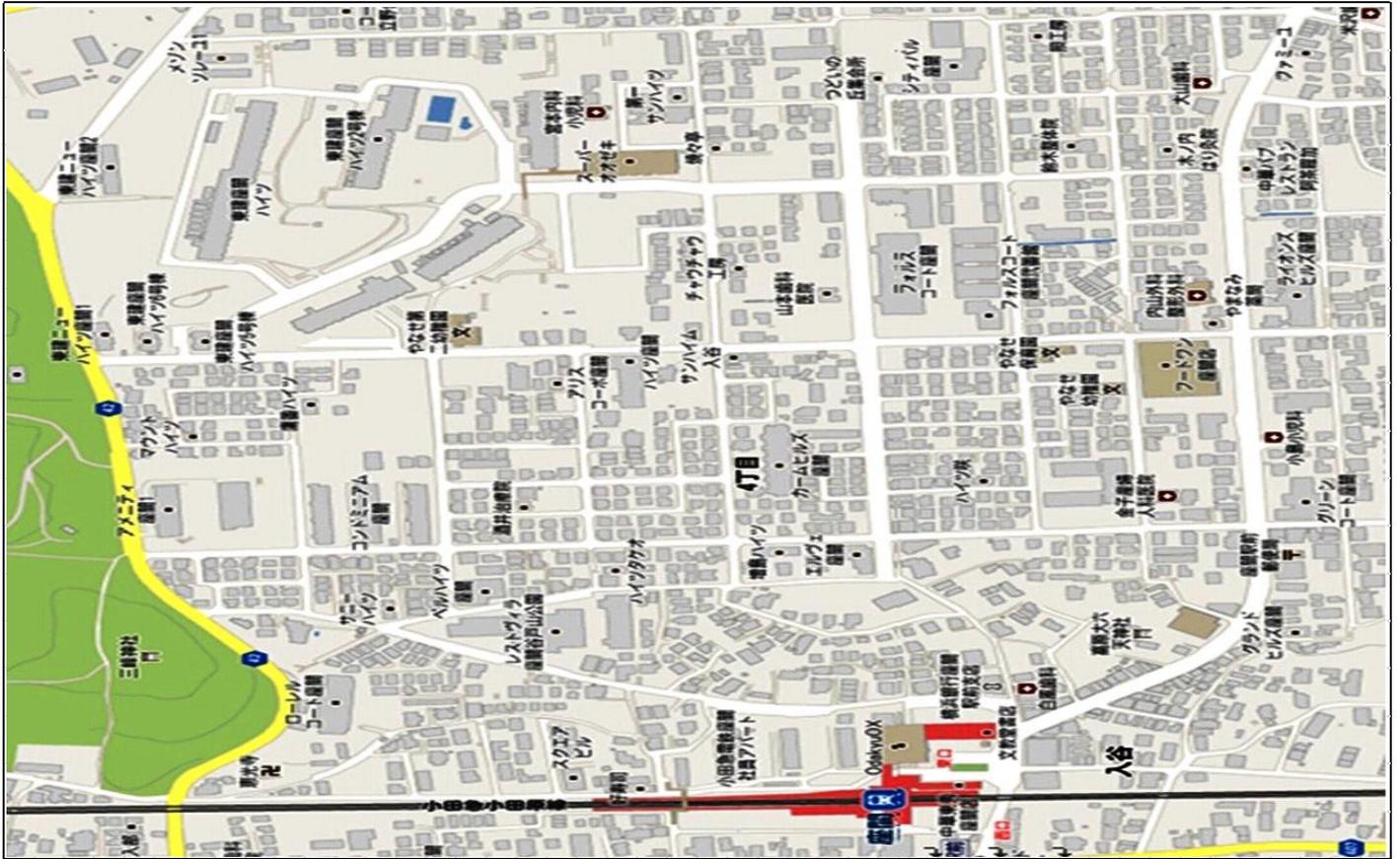
- ・ ボランティア・市民活動団体・自助グループ等の活動状況ならびに企業・NPO などの活動状況、地域団体・人材（地域のキーとなる団体・人物）

- 
- ・ ・ 解決すべき課題は ・ ・
  - ・ ・ 活用できる資源は ・ ・
  - ・ ・ 優先課題は ・ ・

#### ⑦地域援助目標／計画

## 2. 地域診断シート（入谷4丁目サポーターズ交流会版）

### 入谷4丁目地区の地域診断シート



地域情報										
人口規模	世帯数		ひとり暮らし世帯		自治会加入率		世帯		世帯	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	世帯	世帯	世帯	世帯
児童数 (15歳未満)	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
高齢者数 (65歳以上)	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
自治会区域 <small>構成自治会名を記入</small>	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
教育機関	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
行政施設	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
医療機関	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
商業施設	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
福祉施設	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
その他	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	男性 人	女性 人	加入世帯 人	世帯	世帯	%
地域団体	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	加入世帯 人	世帯	世帯	%
地域の歴史	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	加入世帯 人	世帯	世帯	%
地域のおすすめポイント best 5	第1位	要保護者にとって								
	第2位	子ども達にとって								
	第3位									
	第4位									
	第5位									
地域のおこまりポイント best 5	第1位									
	第2位									
	第3位									
	第4位									
	第5位									
私たちが できること	その①									
	その②									
	その③									

### 3. 地域診断シート (地区社協全体研究会版)

地域情報									
人口規模	人口	世帯数	世帯	ひとり暮らし世帯	内高齢者	世帯	世帯	世帯	世帯
男性 女性	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人	人 人 人
児童数 (15歳未満)	男性 女性	人 人	生産人口 (15歳以上の総人口)	男性 女性	人 人	児童 生産 高齢 外国	自治会加入率	%	%
高齢者数 (65歳以上)	男性 女性	人 人	外国人居住	男性 女性	人 人				
自治会区域 <small>種別自治会数を記入</small>									
地域資源	教育機関								
	行政施設								
	医療機関								
	商業施設								
	福祉施設								
その他									
地域団体	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)
地域の歴史									
地域の おすすめ ポイント best10	第1位								
	第2位								
	第3位								
	第4位								
	第5位								
地域の おこまり ポイント best10	第1位								
	第2位								
	第3位								
	第4位								
	第5位								
私たちが できること	課題①								取り組み対策 → → → → →
	課題②								取り組み対策 → → → → →
	課題③								取り組み対策 → → → → →

組織情報									
地区社協名	設立年月日	住所	年月日	年	月	日			
会長	会長選出母体( )	住所							
連絡先	TEL	Email							
組織概要	FAX	ホームページ							
	選出	1名	副会長	選出	書記	選出			
	選出	名	顧問・相談役	選出	その他役員(役員呼称)	選出			
組織会議	総会	月	名称	実施月	実施月	実施月			
	分會		名称	実施月	実施月	実施月			
	分會		名称	実施月	実施月	実施月			
構成団体	例:〇〇自治会(2名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)			
		(名)	(名)	(名)	(名)	(名)			
		(名)	(名)	(名)	(名)	(名)			
会計概要	年度収入	円	年度支出	円	年度繰越	円			
	年度予算	円	特別会計の有無	無し	有り	用途( )			
	名称	参加者	主催	参加者	主催				
参加会議	名称	参加者	主催	参加者	主催				
	分野	実施	事業	名称	会場	参加数			
	食事会・会食会					名			
	スポーツ交流					名			
	講座・研修会					名			
実施事業	施設慰問・交流					名			
	地域サロン					名			
	地域・世代間交流					名			
	見守り・友愛訪問					名			
	広報誌発行					名			
その他						名			
共催・協力事業									
助成事業									
特徴・PR									

平成25年3月

---

神奈川県保健福祉局地域保健福祉部地域保健福祉課  
〒231-8588 横浜市中区日本大通1  
TEL 045-210-1111 (代表)

---

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会地域福祉推進部地域福祉推進担当  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
TEL 045-312-4815

---